伊藤一撃 猛攻の口火

アイホ五輪予選 釧路勢が躍動

【苫小牧】女子アイスホッケーの2026ミラノ・コルティナ冬季五輪最終予選（グループG）が6日、nepiaアイスアリーナで開幕した。初日は2試合が行われ、日本（世界ランキング7位）はフランス（同13位）と激突。第1ピリオドに3点を挙げて優位に立ち、7―1で快勝した。次戦は8日午後3時30分からポーランド（同20位）と対戦する。（鈴木大聖）

日本が快勝発進。第1ピリオド2分にFW伊藤が右サイドから放った一撃が決まって先制すると、7分にはFW輪島のシュートもゴールネットを揺らして追加点を挙げた。猛攻は止まることなく、15分にはまたも輪島がシュートリバウンドを押し込み、このピリオド3点を量産した。勢いそのまま第2ピリオドでも2分にFW小山、8分に再度伊藤がパックを沈めた。終盤の18分に失点して迎えた第3ピリオドだったが、2分にFW野呂莉、12分にはDF関の中距離弾もさく裂し、流れを渡さなかった。

【日本―フランス】第3ピリオド2分に相手を突き放す6点目のゴールを決めるFW野呂莉

主力で勝利に貢献 DF佐藤

○…2017年の五輪最終予選で3連勝し、18年平昌五輪の出場権をつかみ取ったリンクで、まずは1勝を挙げた日本。22年北京五輪後、日本の躍進を支えた中堅、ベテラン勢が抜けて、一気に世代交代したが、不安要素は一切なかった。

釧路出身・関連選手で1番、チームでも2番目に若い18歳の佐藤虹羽（Daishin）は、広い視野と積極的な攻撃参加が光るDF。U18日本代表ではリーダーシップを買われて主将を務めたほか、22年からはフル代表に選出され続け、日本の最終ラインを支えている。

初戦では主力の第1セットとして出場し、チームの勝利に貢献した。「最初は緊張もあったが、スタートから足を動かして、前で前でプレーするという日本らしい試合ができた」と試合全体を総括。個人的な評価としては「ミスもあったので80点」と笑った。

競技を始めた小学2年時から口癖のように言ってきた「スマイルジャパンになりたい」。その目標はすでにかなえたが、もう一つの目標である「五輪出場」はまだ成し遂げていない。チームの盛り上げ役も担う守備の要は次戦以降について、「このままみんなで圧倒して全勝する」と声高らかに意気込んだ。

【日本―フランス】日本の守備の要として主力の第1セットで出場したDF佐藤

油断せず次の試合へ 飯塚監督

○…4大会連続5回目の五輪出場を狙う日本。初戦で相対したのは、2018年平昌五輪の最終予選（17年2月）で日本に黒星を喫して出場権を逃したフランス。グループで最も注視していた難敵だったが、終わってみれば7―1の大差で下した。最高身長190センチの選手が在籍するなど、体格に勝る相手を、実力とスピードでねじ伏せた。

釧路出身の飯塚祐司監督は、7得点のうちの6得点を五輪未経験者が決めたことに触れ「若手の選手が点を入れてくれたことはチーム全体として成長している部分」と評価した。

次戦は22年北京五輪を経験した選手を多数擁する中国と競り合ったポーランドと激突する。「今回は6点差で勝ったが、反省点はたくさんあった。油断せずに次の試合に臨みたい」と静かに闘志を燃やしている。

	日本	フランス
第1	3	0
第2	2	1
第3	2	0
延長		
PS		
合計	7	1

▼得点者【日】①伊藤（志賀紅、志賀葵）1P2分3秒②輪島（小池）1P7分30秒③輪島1P15分27秒④小山2P2分24秒⑤伊藤（志賀紅、志賀葵）2P8分26秒⑥野呂莉3P2分49秒⑦関（入里、浮田）3P12分53秒【フ】①メスプレード（ガルブラン）2P18分54秒

▼シュート数【日】41（15、12、14）【フ】24（8、9、7）

▼反則【日】1【フ】4

	中国	ポーランド
第1	1	1
第2	0	0
第3	1	0
延長	1	0
PS	0	1
合計	3	2